

9/1 認知症見守りシール活用の避難訓練

南国警察署と小規模多機能型居宅介護事業所みそら（介護保険事業所）が連携し、事業所利用者や職員を対象とした避難訓練が行われました。訓練では「南国市認知症高齢者等見守りシール」を職員が身につけ、避難時に利用者が所在不明となり、警察官が発見した際を想定した警察官による身元確認なども行われました。



9/15
南国地区安全運転管理者協議会から自転車用ヘルメットを寄贈

9/9 1日消防署体験～救急フェア～

救急の日に合わせて、1日消防署体験～救急フェア～を開催しました。消防士になりきり放水体験をしたり、ロープの上を渡ったり、消防車や救急車などに乗車したりと子どもたちの笑顔溢れるイベントとなりました。会場では、救急法の実践やDVDの放映を通して命の大切さを学んでもらうことができました。



いつまでもお元気で!



9/1 第66回金婚夫婦祝福式典

第66回金婚夫婦祝福式典（高知新聞社、RKC高知放送、高知新聞社会福祉事業団が主催）が、南国会場のザ・ミーニッツで開かれ、南国市から28組、他市町村からは計36組のご夫婦が出席しました。

式典では、全市町村計64組の金婚夫婦を代表して武市憲雄さん・慶子さんが謝辞を述べられました。

また、南国市の金婚夫婦を代表して小松英輔さん・洋子さんご夫婦に、平山市長から記念品が贈られました。

会場では、50年を振り返る映像の上映や演舞などもあり、参加したご夫婦らは二人で過ごしてきた50年を思い返されていました。



9/21 長寿を祝う敬老訪問

市内の長寿の方2名を、平山市長と南国市社会福祉協議会の竹村会長が訪問しました。市長らがお祝いの言葉を述べると共に、記念品を手渡して長寿を祝いました。

市内には、9月15日にご存命の方で今年度中に100歳以上になる方が82名（男性9名、女性73名）ご健在です。



岩原 松兄さん[100歳]（上倉地区在住）



橋田 貞子さん[100歳]（大篠地区在住）

各地区で敬老を祝う

市内各所で地区主催の敬老会がにぎやかに開催されました。子どもたちや地元の方の歌や踊りなどが披露され、地域全体で敬老会を盛り上げました。



9/17 久枝敬老会



9/18 国府敬老会



9/27 岩村敬老会



コミュニティ助成事業(宝くじ助成金)

宝くじコミュニティ助成事業を活用して以下のものを整備しました。



野営セット（南国市少年消防クラブ）



水消火器セット（南国市女性防火クラブ連合会）



椅子や机などの公民館の備品（西山部落会）

■問い合わせ／消防本部予防課 ☎088-863-3511 ■問い合わせ／企画課 ☎088-880-6553

にっぽんライフ (216)



中澤 保さん
牧野博士のように
植物が好きで始めたわけでは
ありません

元高知営林局の職員で、半世紀をかけて、四国に分布する樹木を記録した本を刊行された中澤保さんにお話を聞きました。

「四国の樹木誌を作ろうと思ったきっかけは？」

1948年、高知営林局にいた和田豊洲さんの植生調査に同行する中、植物の名前を覚えることに興味を持ちました。

そのとき和田さんに標本の作り方を教わり、「牧野日本植物図鑑」を勧められ、早速注文して私と植物の付き合いが始まりました。

1973年、高知大学の講師だった和田さんに、「わしは四国の国有林内に自生するものを主にまとめたが、民有林の調査が足りない。四国全体では種類数が増えるので、お前が新しい『四国の樹木誌』を作ってくれ」と薦められました。自分では荷が重いと感じつつもその約束を果たすため、2014年に「四国の野生を主とした樹木」第巻の「写真編」を、2023年には第2巻の「解説編」を刊行することができました。

「どれくらいの標本を作りましたか？」

4万点以上の標本を作り、写真も一万数千点撮影しました。「牧野日本植物図鑑」は主な種は掲載されていますが、変種（種より葉が細かったり、毛があったりするもの）などはほとんど掲載されていないので、始めは「名著」も猫に小判でした。

「植物採集は大変でしたか？」

コンビニがなかったときで、妻が用意してくれた食料や飲み物などを、クーラーボックスに入れて箱バンで回っていました。小島での植物採集のとき、干潮・満潮の潮位を調べて行かなかったため、目的地に行けずに船便で帰ったことがあります。そこでしか見られない植物があり、再度挑戦しました。島は結構楽しいです。

四国では小豆島でしか見られないレンゲツツジの写真を撮りに行った際には、つぼみが開くまで3日車中泊をしました。また、夜は漁船の音を聞きなが



9月に白寿を迎えた中澤さん。植栽された植物を丁寧に紹介してくれました。時足取りも軽く、若々しく見えました。

「お酒が好きなんですね？」
今は飲んでいませんが、若い頃は「中澤といえば酒飲み」と言われたぐらいです。当時の営林局・署の職員には酒飲みが多く、俗に言う「一升口」がたくさんおりました。私もその中の一人かもしれません。

「1人で晩酌するのがとても楽しかったです。妻に止められることなく、無制限に飲めたので（笑）。」